

(三月のことば)

宗家

初心はおぼろなり

初心は麗し、清し

初心に帰るは肝要なり

鹿見島に参りました。去年の大吟行会で決定した鹿見島支部です。審査会と研修を行いました。皆さん丸一年は満ちませんが、懸念命に吟じました。支部長も指導者もほととせれた以上に、比自さんがし、かり吟じたことに誇らしさも感じられたようです。懇親会に移って、支部長の誘導で一言づつ感想を述べることになりました。その様な話の成り行きは珍しいことだと思いましたが、

「自分が吟をやる環境にいることに驚きと感動を覚えている」と共通して比自さんがし、かりとした口調で、自分の話しぶりでお話しされるのに感じして、段々と感動に変わって行きました。

「初心に帰ると二平成三十一年初めての年頭の挨拶に述べております。初めての印象や感動が、理屈抜きで最も本筋の大切な事と突っ込んでいるのでは、と心うり思いがあります。

しかし、この度はお話を伺いながら、私自身がおぼろ気になつている初心に気付かされ、言葉ではない微妙な心の響き、新鮮な感動を思ひ起させようとした。岳精会の原点と思い起したので、吟は良いものです。

初心に帰るとは本当に大切な事だと思わされました。

(二平成三十一年三月)